



学

藝

令和4年(2022年)8月／第145号

— 特集：総会・講演会 —



令和4年度総会



講演「教育に身をおき40年、そして今…」

講師：NPO法人「みんなのコード」未来の学び探究部
福田晴一先生

◇ 巻頭言	新しい同窓会の事業を実践していくために……………	理事長 森 富子… 2
	再びのコロナ禍から……………	副理事長 茅原 直樹… 3
	直接交流のよさも活かしつつ……………	副理事長 石川 加子… 3
◇ 記念講演	「教育に身をおき40年、そして今…」…NPO法人「みんなのコード」未来の学び探究部	福田晴一先生… 4
◇ 総会資料	…要項、令和4年度事業計画・収支予算書、令和3年度事業報告・収支決算書、役員等一覧…	8
◇ 令和4年度 理事・部員・監事等名簿	……………	14
◇ 令和4年度 支部長名簿	……………	16
◇ サークル等活動紹介 第4回	……………	17
◇ 本部だより	……………総務部・会計部・研修部・調査部・広報部・お知らせ…	18
◇ 総会写真 (会長挨拶・学長挨拶・来賓紹介・理事紹介 他)	……………	20



新しい同窓会の事業を実践していくために

理事長 森 富子

令和四年六月五日の総会で、東京学芸大学同窓会理事長に再び承認されました。森 富子です。同じく承認されました理事、監事の皆様と、顧問、参与の皆様にご相談しながら、しっかりとやっていきたいと思っております。

今年度の総会は大学から國分学長様、副学長様、総務課様のご出席とご協力をいただき、東京学芸大学の教室にて開催いたしました。総務部や各部長を中心に、オンラインを含めた同時双方向の会議の開催でしたが、大学で実践できましたことに改めて感謝いたします。ご参加いただきました皆様、ご講演をいただきました福田先生には心より御礼申し上げます。

令和三年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の中で、新しい生活様式や時代に合った形の同窓会をつくっていかねばとの思いで、各事業を行いました。令和四年の四月ごろから、ようやく世の中も以前のような形を取り戻し、今年度は各事業を例年の形に復活できるのではないかと思っていたのですが、この七月には、感染拡大が今までになく強い勢いになってきて、同窓会の各部の事業が心配になってきました。それでもオンラインで支部長会を行うなどの方法をとってきております。今年も工夫しながら、同窓会としての活動の在り方を探ってまいります。ご意見等をお寄せいただくことができると思います。

先日、昨年は中止だった管理職選考のための研修会に参加しました。ご指導いただいた研修部や講師の先生方の熱心なご指導に、心から感謝いたします。この研修には、同窓会のメンバーではなくても、どなたでも参加できます。ぜひ皆様にご参加していただき、また後輩にお声をかけていただければと思います。今回は主任教諭選考に挑戦しようという若い先生方の参加が増えてきたと感じました。この主任教諭選考の研修を新たに行おうという研修部の企画や動きがあり、同窓会のまた新たな役割になると感じます。さらに調査部が行っている管理職名簿の新しい取り組みや会計部の工夫など、各部での新たな試みや企画を今年度も同窓会理事会などで話し合っただけで進めてまいります。広報部が進めている新しいホームページでは、各部の取り組みや情報、連絡が即時性をもって掲載されています。ぜひご覧ください。

私は、今年度も東京学芸大学で週一日だけ学生の教員就職相談、教員採用試験の対策のための指導を行っています。今年は特に小学校の教員採用試験の競争倍率が下がってきました。同窓会としては、主に退職した先生方が中心ですが、年に何回か、東京学芸大学の学生に対して論文指導や面接指導を行っています。この講師を引き受けるのも、同窓会の役割です。教育実習等で各小中学校に訪問させていただく中で、学校現場でのご努力をいつも見聞きさせていただいてありますが、特に今、とにかく先生が足りないという声や、六十代、七十代でも担任をしているという話を聞きます。教員の情報共有や人材確保、派遣についても、同窓会で何かできないかということも考えているところです。

学校現場の先生方や東京学芸大学の学生のために、少しでもお役に立つことができる同窓会でありますように、しっかりと努力して参ります。

本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

再びのコロナ禍から

副理事長 茅 原 直 樹

令和四年度は、少しずつ日常が戻りつつあると思われる船出だった。

着任五年目となる中学校でも、始業式、入学式、運動会と順調に学校行事を実施することが出来ていた。

しかし、六月下旬の区内中学校特別支援学級合同宿泊学習から帰ってきたところから雲行きが怪しくなってきた。

都内の感染者数は激増し、わずかに二週間で一日の感染者数も数千人レベルから数万人レベルとなった。

本校においても、七月二十日の終業式では一年生が学年閉鎖。七月下旬の二年生の林間学校は、二学期に延期せざるを得ない事態となった。八月末出発予定の修学旅行についても、延期を想定した代替案の検討に入った。

この三年間、学校だけではなく世界は、新型コロナウイルスの猛威に翻弄され続けている。これに加えて、ロシアの現政権が始めた戦争で世界は更に混乱の度を深め、犠牲者や被災者が増え続けている。本校でも戦禍を逃れて来日した生徒をお預かりしている。

このような先行きの読めない世界で学校は何をしたらよいのだろうか。

さる六月五日、本会総会後の講演会での福田晴一先生のお話の中に、「全国の高校生がほぼ三百万人。広域通信制の某高校一校の在籍生徒数が二万八千人・・・。」とあった。

コロナ禍も追い風となったのか、ここ数年、中学生の進路の選択肢の一つとして通信制高校が定着しつつある。某高校のCMでも「これから必要なのはデジタルのコミュニケーション力です。」と語るシーンがある。確かにそのとおりなのだろう。インターネットをはじめとするデジタルのコミュニケーションツールは、

道具としては優れている（前述の講演会が視聴できるのもそのおかげ）。だが、新たに創られた便利な道具が人間の労力を軽減する一方で、人間の能力を減衰させてきた例は枚挙にいとまがない。対面で行うからこそ培われる血の通ったコミュニケーション力がある。直接触れ合うことでしか伝えられない心がある。

次代を担う子供たちにそのことを体験的に学ばせ、私たちが実現できなかった平和な世界を創る夢を託すことこそ、学校教育を職業として選択した私たちに課せられた責務ではないか。

直接交流のよさも活かしつつ

副理事長 石 川 加 子

今年には六月に梅雨が明け、同時に訪れたいきなりの酷暑に誰もが驚き、地球温暖化の現実を実感されたのではないだろうか。コロナの到来とともに、学校ではGIGAスクール構想も一気に進展し、一人一台配付されたタブレットを活用した授業も日常化しつつあります。各校でのペーパーレスの取組も進み、今年度はかつての勤務校から「学校便り」が

郵送で届く学校とそうでない学校も出てきました。いつでもどこでも自分が必要な情報はすぐさま手に入る時代、スマホがないとレストランのメニューも読み取れない時代、高齢者もサクサクとスマホを使いこなせないと生活できない時代がやってきたと、様々な生活場面で実感します。つい数年前に「予測不能な時代が到来する」と言っていたことは、予想以上の速さで進展していると感じます。

コロナ禍での教育も三年目に入り、今年はいよいよ学校行事も工夫しながらではありますが対面で行われるようになりました。春に退職校の運動会に招かれ、子ども達の表現運動と徒競走を直接参観する機会に恵まれました。子ども達が一九となつて声をそろえ、生き生きと表現する姿を見て、人と心をそろえ、力

を合わせて創り上げることの素晴らしさやそれが大きな感動と喜びを生み出すことを再認識しました。このような取組を学校教育では大切に継承し、体験させていきたいものだと感じました。そして、かつての恩師がよく口にしていた「ともに学び、ともに遊び、ともに汗することが大切！」という言葉を思い出しました。

我が同窓会でも、ZOOMを導入し、総会や支部長会などを同時配信したり、新HPを立ち上げて常に最新の情報を提供したりし始めました。時代や社会状況に合わせた活動方法を工夫し、同窓生とのつながりがもてるように努めています。先日行われた支部長会でも、会場にお越しくださった方だけでなく、各地区からZOOMでご参加くださり、支部長の皆様に地区の様子をお伝えいただくことができました。

現在コロナの第七波が到来し、今後の社会状況を見据えながらではありませんが、今年度は「新年祝賀会」を昼の時間に移し、参加人数を考慮しながら直接交流ができる機会を設けて、同窓生同士が語り合い、楽しめる会となるように準備を進めています。直接交流のよさも活かしつつ、今後同窓会活動を工夫してまいります。

記念講演

『教育に身をおき40年 そして、今…』

～ テクノロジー × 多様性 × 地域学校協働推進 ～

講師 NPO法人「みんなのコード」未来の学び探究部

福田 晴一 先生



〔 講師紹介 〕

NPO法人「みんなのコード」未来の学び探究部 福田 晴一 先生

東京学芸大学教育学部特殊教育学科（言語障害児教育）昭和53年卒業

卒業後、東京都公立小学校勤務、知的障害特別支援学校教頭、米国フィラデルフィア補習授業校校長、帰国後、公立小学校教頭を経て、杉並区立和田小学校校長、次の杉並区立天沼小学校では、学校運営協議会、学校地域支援本部事業をはじめ、キャリア教育等推進において、文部科学大臣表彰を受賞。次世代をイメージするモデル的な学校経営を推進した。杉並区の「ICT活用と情報教育」の中核をなし、4年生以上で一人一台タブレットの環境で教育活動を進めた。公立小学校長を退職後、現在は、NPO法人「みんなのコード」未来の学び探究部等を運営している。

一 今日の講演の流れについて

今日の講演はインタラクティブに行いたいと思います。お手元にスマホをご用意ください。

コロナ前の総会の写真と懐かしい武蔵小金井駅の風景です。これが、現在の武蔵小金井駅です。

コロナ禍となり様々な転換が行われました。この総会も同様で、構造転換を迎え、講演者も変更しているとのことでした。

二 自己紹介とアイスブレイク

コメントスクリーンを活用し、参加者の声を聞きながら講演を進めていきます。出身地、学生時代に通ったお店の名前、性別、勤務先種別などを打ち込んでください。スクリーンに出てきました。ライブでできるよさを会場およびオンラインの皆さんと共有していきます。

改めて自己紹介です。一九七八年に東京都公立学校教諭に採用された後、一九九九年に杉並区立済美養護学校の教頭に、その後、アメリカ・フィラデルフィア補習授業校校長を経て、杉並区立和田小学校長、二〇一三年からは杉並区立天沼小学校長となりました。天沼小学校は統合新校のコミュニ

ティ・スクールで、タブレットも使っていました。そうしたことを生かし、退職後はマルチワークをしています。現在はNPO法人「みんなのコード」未来の学び探究部をはじめ、LX DESIGN「複業先生」アドバイザー、戸田市CSディレクター、佐野市CSアドバイザー、学校心理士などをしておりま

さて、ここに映したランドセルを古い順に並べてみると様々なものが多様になってきたことが分かります。日本の教育も、学制から軍国策、戦後教育系統主義、現在は情報教育経験主義へと変遷を遂げてきました。PISAでは上位クラスにいます。日本の教育は、まさに先生方のクオリティでもっています。しかし、その分、教員は定額働かせ放題となっています。今、まさに日本の教育は転換期にきているのではないのでしょうか。

三 これからの学校像

これからの学校に必要なことは、テクノロジ、多様性、そして、連携です。テクノロジについては、施設設備が必要です。これは予算が伴うので教育行政の支

援が必要だと言えます。多様性は、子供と日々接している先生方に委ねます。連携は、管理職の経営手腕です。これらが、これからの学校にはバランスよく求められています。

私自身は、テクノロジについては、「みんなのコード」でプログラミングの普及や情報活用能力の推進をしています。多様性については、心理士として巡回にあたりま

四 「テクノロジー・情報活用能力」

令和四年度の全国学力学習状況調査の特徴ですが、小学校はまさにプログラミングでした。出題されたプログラミングによる正多角形の作図は、学習指導要領のA分類といって、必ずやらなければなら

ない五年生の内容です。「順に処理するのだよ。」「同じことをするのだよ。」「そうすると、正多角形が描けるよ。」「それによって、正多角形の定義が分かるよ。」というところがプログラミングです。今までのように、コンパスと定規ではないのです。二〇二〇年からプログラミングが必修にな

りました。今回は二〇二二年の学力調査でした。つまり、今年の六年生は二〇二一年の五年生です。二〇二〇年からの五年生がやっているかどうかで結果が全く違います。もしやっついていなかったら、悲惨な結果になると思います。

中学校は理科でのタブレット端末は静電気で入力するというところ

GIGAスクール構想は文科省・総務省・経済産業省の三位一体のプロジェクトです。ネットワークは総務省、端末は経済産業省、指導は文科省が担当する非常に大きなプロジェクトです。

二〇二〇年度から小学校の、昨年度からは中学校の学習指導要領が改訂されました。総則では、情報活用能力が、従来の言語活動、課題解決能力と同等に学習の基盤であるとうたわれています。中学校での情報活用能力の育成は、教科全般をとおしてではあるものの、中心は技術家庭です。技術科はA B C D 四つの分野があり

ます。その中のDに情報に関する技術があります。今までの技術は木工や金工でした。Aも製図をして本立てを作ることでした。それはその当時に必要なリテラシーでした。今のリテラシーは情報活用です。その情報活用には今回二つのことが入りました。一つはネットワークを利用した双方向コンテンツについてです。これには情報モラルも含まれます。相手にメールを送った場合、中学生は相手にダイレクトにメールが届いたと考えます。しかし、実際はクラウドに上がって、それを相手が取りにいってつながるのです。そういう仕組みを授業でやりましょうということですので。そうした学習をとおして情報モラルが定着し、いろいろな問題が解決されます。

東京は技術科の専門の教員がしっかりと配置されています。中学校の技術家庭科は三年間で87・5時間です。そのうちDの情報に関する技術は十数時間です。週に一時間もありません。しかも、学校の学級数が少なければ、時間講師による指導になります。時間講師には研修権がないので、今お話ししたような状況が分からない人

もいます。それでも、東京都はまあいい方です。地方はより講師に頼っています。そうした最たる問題があるのは高校です。今年から高校では情報科目が必修になりました。今、会場にいる皆さんの高校時代には、情報という教科はなかったと思います。いつ入ったかと言うと二〇〇六年です。当時は、情報ABCですが、二〇一二年に、社会と情報、情報の科学となりました。社会と情報は座学です。モラルです。情報の科学はキーボードによる操作です。これは18%位しかやっていませんでした。今までの高校生から大学生まではほとんどが社会と情報です。それが今年の高校一年生から情報Iとして必修化されました。文系理系関係ありません。必修科目としてキーボードによる操作とプログラミングを学習します。他にもウェブデザインがあります。

たのかというと理科や数学等の教員が臨時免許で教えているのです。このように小学校、中学校から上がってくる子供がGIGA端末を持って、さっきのコメントスクリーンなども経験して入学してきます。二〇二五年からは大学入試に情報科が入ります。どういう形でCBTが入るかは分かりませんが、入るのです。この高校の情報Iはカオスではないかと感じています。

それでは、どうして、このように情報、情報となってきたのかを次にお話していきたいと思えます。

時価総額で見る二一世紀の価値

創造の源泉

企業の時価総額について、昨年と一九八九年の実態を比較します。ここで、再度コメントスクリーンを使いましょう。予想を送ってください。一九八九年の一位はNTTでした。金融関連の企業が多く入っていました。SONYも入っています。ところが、今は情報関連の企業が多いのです。現在は一〇社中七社がIT関連企業です。

一人一台がなせる技

GIGASスクール構想で一人一台の端末が来ました。いろいろな

ことができるようになりました。テキストマイニングも進んでいる学校は使っています。テキストマイニングを使うと、いろいろなテキストデータから有用な情報を深掘りできます。有用な情報を取り出し、テキストデータの分析を簡単にできます。子供の変移を科学的に分析しようという授業も始まっています。田村学先生は、これを「学びの自覚化」と呼んでいます。

一九九三年に港区立神応小学校の荻宿先生が『教室にやっていた未来』という本を書きました。三〇年前に教室に一人一台端末がやってきたらどうなるのかを考えた教育実践です。今の時代と全く変わらない取組です。現在、一人一台端末が来て、教育工学的に学校が走っているように感じます。本来であれば、学びにいかなければならぬのではないかと思えます。まずは、「端末が来たからやってみよう」「使ってみよう」は分かれますが、もうその先のフェーズに行かなければなりません。テクノロジーで学びが変わるところまで来ています。レールを引いて活動させるところから、子

供たちが自分でルールを引いて学びを進めていくことに変換しないといけません。

五 時代はボーダレス

インクルーシブ・多様性の享受

インクルーシブ（共生共育）について、インスクルージョン（排除）・セパレーション（分離教育）・インテグレーション（統合教育）との比較でお話しします。

昭和五四年に全国に養護学校ができました。それ以前は、就学猶予がありました。そこから、特別支援学校、特別支援学級へと移り変わり、今は集団の中でも自然と囲みが薄れてきています。

そもそもすべての子に、ばらつきがあるのではないかと思います。

インクルーシブは多様性の享受だろうと思います。インクルーシブ教育と特別支援教育が同じと理解している方がいますが、この二つは元来違うものです。特別支援教育は障害のある児童への個別のニーズ教育です。インクルーシブ教育は全体のありよう、受け皿を変える、つまり、基礎を整える教育です。インクルーシブは集団への働きかけ、特別支援教育は個への働きかけです。この二つが車の

両輪のようにしっかりと連携されないといけないのです。

シームレス

今や時代はシームレスです。日本人と外国人、都市部と地方、終身雇用と転職転業、LGBT、子ども時代が変わってきています。子供たちにも多様性を享受させないといけなくなっています。

学校だけが学びの場ではなくなってきました。たかさんの学びの場があります。フリースクールもどんどん増えています。全日、昼間、夕方、夜間、自分のライフスタイルに合わせて選べます。授業も対面とオンラインで選択ができます。教科・領域カリマネです。

SDGs / STEAM / PBLがあり、全国でまだ二八校だけですが、授業時数特例校もできました。通常の教育と特別支援教育もシームレスになっていくのだと思います。

次に、特別支援学級の教育課程を通しての生活単元学習についての話です。生活単元学習には教科書がなく、教員がクリエイティブにして、チームでカリマネしていきます。このようにチームでカリマネしていく経験として、初任一〇年の間に特別支援教育を経験させること

も必要なのではないかと思っています。

六 今までが通用しない「連携強化」この数字が意味するもの

小中不登校児童生徒数は平成一〇年度から令和元年度で一・四倍、通級指導を受ける児童生徒は平成五年度から令和元年度で十一倍、児相虐待相談件数は平成二十年度から令和二年度で十一倍になっています。

インターネットによる民主化

国、性別に関係なく情報収集が可能になりました。N校には、今二万三千人が在籍しています。日本の高校生の一%がN校です。通信制高校が加わるともっと多くなります。社会の変化に学校がついていていません。

ベテランの先生方が早期退職したり離職したりしてフリースクールへと移っている現状もあります。

問われる学校教育

教員採用試験の倍率が下がり二倍を切る県もあります。採用試験を二回する県もあります。だからこそ、国をあげて取り組まなければいけません。そのためにもコミュニティ・スクールがあります。平成十九年頃、全国の中学校に三年間の時限立法で予算を付け

た地域学校協働推進の話がありました。時限立法だったので、国からの予算の後は自治体予算になるため、それほど普及しませんでした。その後、努力目標になりました。でも、今は学校数が大きく伸びています。これは、教員が現場で疲弊している状況だからなのではないかと思っています。だからこそ、地域の力を学校に入れていかなければならないという数値の表れだと思います。全国三万六千校の三分の一がコミュニティ・スクールになっています。

公教育は公助だけでは難しいので、共助を取り入れるようになりました。支援から連携へ、そして、協働へ。学校を核にした地域づくりを進めていかなばなりません。

六 エピローグ

GIGAスクール構想は残り七〇〇日です。どのように継続していくか、広がっていくかが鍵となります。

七 母校に期待と支援を

東京学芸大学は教員養成のフラッグシップ大学です。我々同窓生もしっかりと注視しながら、できることをしていきたいと思っています。

令和4年度 一般社団法人 東京学芸大学同窓会 総会資料

- ※期 日 令和4年6月5日(日)
 ◆受付 12:30~
 ※時 程 総 会 13:00~14:00
 講演会 14:15~15:15
 ※会 場 東京学芸大学 講義棟S410教室
 ※次 第

【I】 総 会 (13:00~14:00)	司 会：総務部長	青 山 直 志
1 開会の辞	副理事長	篠 原 敦 子
2 理事長挨拶	理 事 長	森 富 子
3 来賓代表挨拶	東京学芸大学学長	國 分 充 様
4 来賓紹介	副理事長	石 川 加 子
5 議事録署名人の選出		
6 議事		
<報告事項>		
(1) 令和4年度 事業計画	副理事長	茅 原 直 樹
(2) 令和4年度 収支予算書	会計副部長	田 村 秀 子
(3) 令和4年度 理事・監事紹介	理 事 長	森 富 子
<審議事項>		
(1) 令和3年度 事業報告	副理事長	茅 原 直 樹
(2) 令和3年度 収支決算報告	会計副部長	田 村 秀 子
(3) 令和3年度 監査報告	監 事	早 坂 ひとみ
(4) その他		
7 退任支部長への謝辞	理 事 長	森 富 子
8 閉会の辞	副理事長	渡 辺 裕 之

【II】 講 演 会 (14:15~15:15) 司 会：総務部長 青 山 直 志
 『教育に身をおき40年、そして今…』

【講師】 NPO法人みんなのコード学校教育支援部長

福 田 晴 一 先生

【 特殊教育学科(言語障害児教育)卒業 】

<謝 辞> 理 事 長 森 富 子

令和4年度 事業計画

【公益事業】

A 研究・研修活動

1 研究活動

(1) 総会後の教育講演会

令和4年 6月 5日(日) 14:15開会 東京学芸大学講義棟S410教室

演題 『教育に身をおき40年、そして今…』

講師：福田 晴一 先生 (特殊教育学科(言語障害児教育)卒業)

※YouTubeによる限定ライブ配信実施

(2) 会報誌「學藝」による研究校紹介

令和4年 8月 第145号、令和4年12月 第146号、令和5年 3月 第147号に
研究発表校の予告、発表終了後の報告等を掲載

「スイッチ・オン」(「學藝」最終ページ)に必要な教育情報が得られよう同窓会ホームページを案内

2 研修活動

(1) 教育管理職等幹部教員育成研修会の開催

① 校長・教育管理職(A・B選考)受験者の論文研修会

・5月8日(日)・6月12日(日) 9:00～12:00 <江東区立東陽小> 受講者30名見込み

② 主任教諭選考受験者の論文研修会

・5月8日(日) 9:00～12:00 <江東区立東陽小> 受講者30名見込み

③ 面接研修会(校長及びA・B選考一次合格者対象)

・9月11日(日) 9:00～15:00 <江東区立東陽小> 受講者50名見込み

B 出版活動

1 管理職及び選考受験者用研修テキスト「獅子」第43集の改訂発行・頒布

令和4年4月予定 1000部

2 若手教員及び教員養成課程履修学生用研修テキスト「子獅子」の改訂・寄贈

令和4年11月予定 600部

(東京学芸大学教員養成課程履修学生用教科書および若手教員の育成テキストとして活用)

C ホームページ運営

「一般社団法人 東京学芸大学同窓会」ホームページへの各校・園の研究発表会の案内掲載

D 関係団体との連携事業

1 国立大学法人東京学芸大学との連携

(1) 卒業式への理事長参列

(2) 学生後援会への資金援助(東京学芸大学基金として援助)

(3) 「教育実践演習」への講師派遣

(4) 「教師」の魅力発信プロジェクト第2弾への援助

2 「辟雍会」との連携

(1) 副会長、理事への就任

(2) 理事会への出席

(3) ホームカミングデーへの参加

3 その他関係団体との連携

(1) 学校法人竹早学園 竹早教員保育士養成所の卒業式への参列

(2) 学校法人竹早学園 つつじがおか幼稚園の入園式・修了式への参列

(3) 東京都一水会等の総会等への出席

【共益事業】

A 運営の充実を図るための事業

1 理事会・支部長会の適切な企画と運営及び各活動の能率的な運営のための連絡調整

2 諸記録の整理保管と財産の適正な管理

B 会員意識の高揚と組織の活性化を図るための事業

1 総会の企画と実施・・・令和4年 6月 5日(日) 東京学芸大学講義棟S410教室

2 新年祝賀会の企画と運営・・・令和5年 1月22日(日) 東京ガーデンパレス

3 能率的かつ合理的な予算の適正執行と会費(正会員費、賛助会員費、終身会員費)納入の促進

4 令和4年度 管理職名簿の作成・配布 令和4年8月に学芸大学同窓会ホームページ上に掲載予定 (まず、6月10日以降に管理職等名簿(仮PDF)を、同窓会ホームページ上に掲載します)

5 支部活動への役員出席

6 終身会員の勧誘及び支部別組織化

7 広報誌「學藝」での活動の周知

8 ホームページを活用し、同窓会活動を周知する。

C 支部活動活性化への支援事業

1 支部研修会への講師派遣

2 広報誌「學藝」での支部活動の紹介

3 会員数に応じた支部活動費の給付 (200円×正会員費納入数)

令和4年度 収支予算書

令和4年 4月1日から
令和5年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	公益事業		その他会計			事業計	法人会計	内部取引 控除	合計
	寄1	小計	共益小計	収益事業	その他会計 小計				
I 一般正味財産増減の部									
1. 経常増減の部									
(1) 経常収益									
基本財産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基本財産賃貸収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取会費	0	0	0	0	0	0	6,410,000	0	6,410,000
会費収入 正会員費	0	0	0	0	0	0	4,500,000	0	4,500,000
準会員費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
賛助会員費	0	0	0	0	0	0	1,800,000	0	1,800,000
終身会員費	0	0	0	0	0	0	110,000	0	110,000
事業収益	2,302,000	0	0	0	0	2,302,000	0	0	2,302,000
出版頒布「獅子」	2,000,000	0	0	0	0	2,000,000	0	0	2,000,000
出版頒布「子獅子」	12,000	0	0	0	0	12,000	0	0	12,000
論文研修開催収入	90,000	0	0	0	0	90,000	0	0	90,000
面接研修開催収入	200,000	0	0	0	0	200,000	0	0	200,000
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
寄附金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雑収益	0	0	3,000,030	0	3,000,030	3,000,030	320	0	3,000,350
雑収益	0	0	3,000,030	0	3,000,030	3,000,030	320	0	3,000,350
経常収益計	2,302,000	0	3,000,030	0	3,000,030	5,302,030	6,410,320	0	11,712,350
(2) 経常費用									
事業費	3,604,300	500,000	7,093,500	0	7,093,500	11,197,800		0	11,197,800
役員報酬	0	0	300,000	0	300,000	300,000		0	300,000
懇親会費	0	0	3,725,000	0	3,725,000	3,725,000		0	3,725,000
旅費交通費	142,500	0	324,500	0	324,500	467,000		0	467,000
会議費	55,000	0	123,000	0	123,000	178,000		0	178,000
諸謝金	740,000	0	260,000	0	260,000	1,000,000		0	1,000,000
印刷製本費	2,400,000	0	1,240,000	0	1,240,000	3,640,000		0	3,640,000
通信運搬費	26,500	0	250,000	0	250,000	276,500		0	276,500
サ卜運営費	216,800	0	16,500	0	16,500	233,300		0	233,300
消耗品費	23,000	0	175,500	0	175,500	198,500		0	198,500
支払寄附金	0	500,000	0	0	0	500,000		0	500,000
調査研究費	0	0	30,000	0	30,000	30,000		0	30,000
渉外費	0	0	450,000	0	450,000	450,000		0	450,000
賃借料	0	0	0	0	0	0		0	0
租税公課	0	0	70,000	0	70,000	70,000		0	70,000
支払報酬	0	0	90,000	0	90,000	90,000		0	90,000
雑費	500	0	39,000	0	39,000	39,500		0	39,500
管理費							510,000	0	510,000
懇親会費							0	0	0
旅費・交通費							400,000	0	400,000
通信運搬費							0	0	0
消耗品費							10,000	0	10,000
印刷製本費							0	0	0
事務局費							90,000	0	90,000
渉外費							0	0	0
雑費							10,000	0	10,000
経常費用計	3,604,300	500,000	7,093,500	0	7,093,500	11,197,800	510,000	0	11,707,800
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 1,302,300	△ 500,000	△ 4,093,470	0	△ 4,093,470	△ 5,895,770	5,900,320	0	4,550
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 1,302,300	△ 500,000	△ 4,093,470	0	△ 4,093,470	△ 5,895,770	5,900,320	0	4,550
2. 経常外増減の部									
(1) 経常外収益									
経常外収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用									
経常外費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0

令和3年度 事業報告

【公益事業】

A 研究・研修活動

1 研究活動

(1) 総会後の教育講演会

令和3年 6月 6日(日) 14:15開会 東京学芸大学講義棟S410教室

演題 『学びのバージョンアップをめざして』

講師 : 鈴木 秀樹 先生 (東京学芸大学附属小金井小学校教諭)

※YouTubeによる限定ライブ配信実施

(2) 会報誌「學藝」による研究校紹介

令和3年 7月 第142号、令和3年12月 第143号、令和4年 3月 第144号に研究発表校の予告、発表終了後の報告等を掲載

「スイッチ・オン」(「學藝」最終ページ)に必要な教育情報が得られよう同窓会ホームページを案内

2 研修活動

(1) 教育管理職等幹部教員育成研修会の開催

① 校長・教育管理職(A・B選考)受験者の論文研修会

・5月 9日(日)・6月13日(日) 9:00～12:00

<千代田区立番町小>

受講者30名見込み

② 主任教諭選考受験者の論文研修会

・5月 9日(日) 9:00～12:00

<千代田区立番町小>

受講者30名見込み

③ 面接研修会(校長及びA・B選考一次合格者対象)

・9月12日(日) 9:00～15:00

<千代田区立番町小>

受講者50名見込み

※以上の予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大により、全て中止。

B 出版活動

1 管理職及び選考受験者用研修テキスト「獅子」第42集の改訂発行・頒布

令和3年4月 1000部

2 若手教員及び教員養成課程履修学生用研修テキスト「子獅子」の改訂・寄贈

令和3年11月 600部

東京学芸大学教員養成課程履修学生用教科書および若手教員の育成テキストとして活用)

C ホームページ運営

「一般社団法人 東京学芸大学同窓会」ホームページへの各校・園の研究発表会の案内掲載

D 関係団体との連携事業

1 国立大学法人東京学芸大学との連携

- (1) 卒業式への理事長参列（3年度は、参列は無し）
- (2) 学生後援会理事・評議員・監事への就任（3年度は、書面決議）
- (3) 「教育実践演習」への講師派遣
- (4) 附属図書館増築工事の完了に際し、図書館利用学生に対する教育研究活動の支援として障害者用テーブル購入の資金援助
- (5) 「教育人材リカレント養成・マッチングプログラム」への協力

2 「辟雍会」との連携

- (1) 副会長、理事への就任（臼木監事、稲葉副理事長、青山総務部長）
- (2) 理事会への出席（3年度は、書面決議）
- (3) ホームカミングデーへの参加（3年度は、中止のため参加は無し）

3 その他関係団体との連携

- (1) 学校法人竹早学園 竹早教員保育士養成所の卒業式への参列（3年度は、祝辞を渡すのみ）
- (2) 学校法人竹早学園 つつじがおか幼稚園の入園式・修了式への参列（3年度は、参列は無し）
- (3) 学校法人竹早学園後援会代議員への就任（篠原副理事長、石川副理事長）
- (4) 東京都一水会等の総会等への出席（3年度は、中止のため参加は無し）

【共益事業】

A 運営の充実を図るための事業

- 1 理事会・支部長会の適切な企画と運営及び各活動の能率的な運営のための連絡調整
- 2 諸記録の整理保管と財産の適正な管理

B 会員意識の高揚と組織の活性化を図るための事業

- 1 総会の企画と実施・・・令和3年 6月 6日（日） 東京学芸大学講義棟S410教室
- 2 新年リモート交流会の企画と運営・・・令和4年 1月23日（日） 東京学芸大学講義棟S410教室
- 3 能率的かつ合理的な予算の適正執行と会費（正会員費、賛助会員費、終身会員費）納入の促進
- 4 令和3年度 管理職名簿の作成・配布 令和3年8月発行

（総会時に第一稿を各支部に1冊配布）

- 5 支部活動への役員出席
- 6 終身会員の勧誘及び支部別組織化
- 7 広報誌「學藝」での活動の周知
- 8 ホームページを活用し、同窓会活動を周知する。

C 支部活動活性化への支援事業

- 1 支部研修会への講師派遣（3年度は、中止のため講師派遣要請は無し）
- 2 広報誌「學藝」での支部活動の紹介
- 3 会員数に応じた支部活動費の給付（200円×正会員費納入数）

令和3年度 収支決算書

令和3年 4月1日から
令和4年 3月31日まで

(単位:円)

科目	公益事業		その他会計			事業計	法人会計	内部取引 控除	合計
	寄1	小計	共益小計	収益事業	その他会計 小計				
I 一般正味財産増減の部									
1. 経常増減の部									
(1) 経常収益									
基本財産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基本財産貸貸収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取会費	0	0	0	0	0	0	6,008,000	0	6,008,000
会費収入 正会員費	0	0	0	0	0	0	4,236,000	0	4,236,000
準会員費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
賛助会員費	0	0	0	0	0	0	1,642,000	0	1,642,000
終身会員費	0	0	0	0	0	0	130,000	0	130,000
事業収益	1,936,800	0	0	0	0	1,936,800	0	0	1,936,800
出版頒布「獅子」	1,920,000	0	0	0	0	1,920,000	0	0	1,920,000
出版頒布「子獅子」	16,800	0	0	0	0	16,800	0	0	16,800
論文研修開催収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面接研修開催収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
寄附金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雑収益	0	0	61	0	61	61	327	0	388
雑収益	0	0	61	0	61	61	327	0	388
経常収益計	1,936,800	0	61	0	61	1,936,861	6,008,327	0	7,945,188
(2) 経常費用									
事業費	7,110,671	484,000	2,490,040	0	2,490,040	10,084,711		0	10,084,711
役員報酬	0	0	0	0	0	0		0	0
懇親会費	0	0	36,019	0	36,019	36,019		0	36,019
旅費交通費	60,000	0	320,000	0	320,000	380,000		0	380,000
会議費	29,832	0	301,130	0	301,130	330,962		0	330,962
諸謝金	145,000	0	116,800	0	116,800	261,800		0	261,800
印刷製本費	6,629,797	0	1,012,136	0	1,012,136	7,641,933		0	7,641,933
通信運搬費	24,076	0	196,287	0	196,287	220,363		0	220,363
サイト運営費	205,744	0	0	0	0	205,744		0	205,744
消耗品費	0	0	151,858	0	151,858	151,858		0	151,858
支払寄附金	0	484,000	0	0	0	484,000		0	484,000
調査研究費	0	0	0	0	0	0		0	0
渉外費	0	0	106,000	0	106,000	106,000		0	106,000
賃借料	0	0	0	0	0	0		0	0
租税公課	0	0	70,000	0	70,000	70,000		0	70,000
支払報酬	0	0	124,530	0	124,530	124,530		0	124,530
雑費	16,222	0	55,280	0	55,280	71,502		0	71,502
管理費							486,536	0	486,536
懇親会費							0	0	0
旅費・交通費							373,500	0	373,500
通信運搬費							370	0	370
消耗品費							0	0	0
印刷製本費							0	0	0
事務局費							90,000	0	90,000
渉外費							0	0	0
雑費							22,666	0	22,666
経常費用計	7,110,671	484,000	2,490,040	0	2,490,040	10,084,711	486,536	0	10,571,247
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 5,173,871	△ 484,000	△ 2,489,979	0	△ 2,489,979	△ 8,147,850	5,521,791	0	△ 2,626,059
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 5,173,871	△ 484,000	△ 2,489,979	0	△ 2,489,979	△ 8,147,850	5,521,791	0	△ 2,626,059
2. 経常外増減の部									
(1) 経常外収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
II 当期一般正味財産増減額									△ 2,626,059
一般正味財産期首残高									50,602,239
一般正味財産期末残高									47,976,180

令和4年度 理事・部員・監事等名簿

令和4年7月現在

1 理事

	役 職	氏 名	卒	専攻類科	勤 務 先	勤務先電話	勤務先FAX
1	理 事 長	森 富子	51	A-理科	武蔵野大学	042-468-3290	042-468-3207
2	副理事長	茅 原直樹	58	B-国語	江戸川区立二之江中	3686-2281	3686-2283
3	副理事長	石 川加子	55	A-家庭科	江東区教育委員会	3647-9170	5690-6911
4	副理事長	篠 原敦子	56	A-家庭科	東京都教職員研修センター	5802-2071	5802-2080
5	副理事長	稲 葉孝之	56	A-保健体育			
6	副理事長	渡 辺裕之	59	M-国語	武蔵野大学	042-468-3290	042-468-3207
7	総務部長	青 山直志	H1	A-学校教育	練馬区立石神井西小	3929-0022	3929-9050
8	同副部長	織 茂直樹	62	A-社会	東村山市立秋津東小	042-391-8191	042-397-5411
9	同副部長	早 川修一	57	D-音楽	新宿区立東戸山小	3205-9504	3205-9487
10	同副部長	船 木亮作	58	A-保健体育	港区立港南小	3474-1627	3474-1500
11	同副部長	内 木勉	62	A-国語	練馬区立光が丘春の風小	3976-5861	5383-3592
12	会計部長	高 野剛一	H5	A-社会	板橋区立大谷口小	3956-8632	5995-8349
13	同副部長	田 村秀子	57	E-幼稚園	文京区立第一幼稚園	3811-0072	5689-4520
14	研修部長	貝 原俊明	60	A-保健体育	町田市立町田第二小	042-722-3316	042-721-4493
15	同副部長	清 水淳	63	A-保健体育	町田市立小山田南小	042-797-4541	042-797-1845
16	同副部長	西 田香	63	A-理科	世田谷区立桜小	3420-5382	3420-5626
17	調査部長	小 川優	59	A-学校教育	中央区立阪本小	3666-0044	3668-2366
18	同副部長	西 谷秀幸	H3	A-社会	板橋区立成増ヶ丘小	3930-2070	5998-4092
19	広報部長	加 納一好	59	A-社会	渋谷区立幡代小	3370-2482	3370-2366
20	同副部長	原 沢伸一	62	A-数学	台東区立石浜小	3875-0031	3871-9513

2 部 員

	役 職	氏 名	卒	専攻類科	勤 務 先	勤務先電話	勤務先FAX
1	総務部員	和田万希子	62	E-幼稚園	台東区立石浜橋場こども園	3876-0049	3871-9521
2	総務部員	石 井正広	H1	A-社会	新宿区立四谷小	5369-3776	3341-4343
3	総務部員	桐 敷芳子	61	B-美術	足立区立竹の塚小	3884-5334	3884-5335
4	総務部員	佐 野篤	H1	A-学校教育	杉並区立杉並第二小	3313-0564	3313-1709
5	総務部員	熊 倉勝	63	A-数学	文京区立明化小	3942-1493	3944-6713
6	総務部員	森 村聡彦	62	A-社会	墨田区立第一寺島小	3614-0103	3614-0154
7	会計部員	西 澤尚子	62	E-幼稚園	北区立さくらだこども園	3914-8486	3914-8486
8	会計部員	青 山伸子	H1	E-幼稚園	港区立芝浦幼稚園	3452-0574	3452-6433
9	会計部員	傳 田学	H8	A-数学	千代田区立番町小	3263-3721	3263-3723
10	会計部員	關 口泰正	H8	A-学校教育	北区立滝野川第三小	3910-7812	5567-4523
11	研修部員	高 橋俊之	61	A-社会	中野区立桃花小	3381-7251	3381-7252
12	研修部員	伊 藤進	61	A-理科	葛飾区立花の木小	3609-3333	5699-1372
13	研修部員	田 中薫子	62	A-理科	板橋区立志村坂下小	3932-6365	3934-1791
14	研修部員	大 橋美都子	62	E-幼稚園	港区立中之町幼稚園	3405-7245	3405-7619
15	研修部員	薄 井智美	62	A-国語	町田市立町田第六小	042-722-3659	042-721-4730
16	研修部員	土 田昇	63	A-社会	町田市立小山小	042-797-2733	042-797-0759
17	研修部員	井口美由紀	63	A-国語	新宿区立富久小	3358-3763	3358-3756
18	研修部員	佐 藤友信	H1	A-社会	江東区立東陽小	3644-0003	5690-4013
19	研修部員	柿 崎洋一	H1	A-社会	国分寺市立第七小	042-322-0047	042-325-4915
20	研修部員	丸 節子	60	A-美術	町田市教育センター	042-793-2481	042-791-0359
21	研修部員	高 野康弘	H3	A-保健体育	板橋区立志村第二小	3965-4866	3966-9012
22	研修部員	加 瀬幸司	H2	A-数学	足立区立中川北小	3620-3833	3620-3832
23	調査部員	藤 橋義之	58	A-保健体育	武蔵野市立大野田小	0422-51-0511	0422-53-8634
24	調査部員	小 原潤	60	A-社会	杉並区立方南小	3322-7661	3322-1524
25	調査部員	五十嵐誠一	60	A-理科	武蔵村山市立大南学園第七小	042-564-1286	042-563-9348

	役 職	氏 名	卒	専攻類科	勤 務 先	勤務先電話	勤務先FAX
26	広報部員	石出 浩 朗	62	A - 保健体育	品川区立伊藤小	3771-5289	3771-5949
27	広報部員	米田 典 子	62	A - 理科	練馬区立仲町小	3932-5369	5920-0332
28	広報部員	荒木 憲 秀	H6	A - 理科	渋谷区立笹塚小	3377-2345	3377-2466
29	広報部員	荻久保剛正	H6	A - 数学	板橋区立板橋第一小	3961-0100	5375-5760
30	広報部員	入 倉 勝	H5	A - 社会	杉並区立永福小	3322-7391	3322-9251

3 監 事

	役 職	氏 名	卒	専攻類科	勤 務 先	勤務先電話	勤務先FAX
1	監 事	白木 信 子	45	A - 保健体育	日本赤十字社東京都支部	5273-6741	049-252-2646
2	監 事	酒井 晴 夫	46	B - 産業技術			
3	監 事	早坂ひとみ	54	A - 国語	江東区立教育委員会		
4	監 事	伊藤 隆	52	A - 保健体育	蔵前幼稚園	3851-0040	3861-0013
5	監 事	葛谷 裕 治	56	A - 数学	五反野幼稚園	3889-7621	3889-7621

4 顧 問

	役 職	氏 名	卒	専攻類科	勤 務 先	勤務先電話	勤務先FAX
1	顧 問	國分 充			東京学芸大学 (学長)	042-329-7100	042-329-7129
2	顧 問	秋山 育也	30	甲 - 社会			
3	顧 問	佐藤 倫則	35	乙 - 保健体育			
4	顧 問	安藤 駿英	37	甲 - 教育・心理			
5	顧 問	吉野 尚也	37	甲 - 保健体育	竹早学園理事長	3577-5973	
6	顧 問	加藤 正克	44	A - 保健体育	台東ことぶきこども園	3841-4719	3841-4602
7	顧 問	塩澤 雄一	49	A - 学校教育			
8	顧 問	齊藤 光一	48	A - 理科	竹早教員保育士養成所	3811-7251	3811-7253
9	顧 問	高橋 武郎	50	A - 社会	竹早教員保育士養成所	3811-7251	3811-7253
10	顧 問	和田 利次	53	A - 数学	中央区教育委員会		

5 参 与

	役 職	氏 名	卒	専攻類科	勤 務 先	勤務先電話	勤務先FAX
1	参 与	吉澤 秀雄	29	甲 - 理科			
2	参 与	柳下 昭夫	23Ⅱ	(第二師範)	元撫子会 幹事長		
3	参 与	岡村 幸夫	25Ⅲ	(第三師範)	元大泉会 代表		
4	参 与	溝江 力	26	乙 - 理科			
5	参 与	森 正康	29	甲 - 美術			
6	参 与	井出 虎雄	28	乙 - 社会			
7	参 与	高橋 毅	36	甲 - 保健体育			
8	参 与	奥山 英男	34	甲 - 社会			
9	参 与	宮田 澄江	37	甲 - 国語			
10	参 与	岩谷 榮子	38	甲 - 数学			
11	参 与	竹内 道義	38	甲 - 保健体育			
12	参 与	原 妃裳子	41	甲 - 教育心理			
13	参 与	堀木 邦男	43	B - 保健体育			
14	参 与	足立 善朗	44	B - 社会	西東京市適応教室	042-468-0195	042-468-6340
15	参 与	佐治 恒孝	44	D - 保健体育	ヒューマンアカデミー東京校	6892-2150	6892-2160
16	参 与	市川 雅美	47	A - 国語			
17	参 与	島 秀夫	47	A - 数学			
18	参 与	伊藤 隆	52	A - 保健体育	蔵前幼稚園	3851-0040	3861-0013

令和4年度 支部長名簿

令和4年7月現在

NO	支部名	現任校名	支部長名	NO	支部名	現任校名	支部長名
1	千代田	麴町小	井田 孝	33	小金井	本町小	佐藤 歩
2	中央	明石幼	佐藤 恵	34	小平	学園東小	三坂 明子
3	港	六本木中	石原 嘉人	35	日野	七生中	但野 嘉美
4	新宿	落合第二小	橋本 則子	36	東村山	南台小	鶴田 誠二郎
5	文京	明化小	熊倉 勝	37	国分寺	第九小	矢島 英明
6	台東	金竜幼	川崎 暁子	38	国立	国立第八小	内田 辰彦
7	墨田	第一寺島小	森村 聡彦	39	福生	福生第四小	阿部 憲一
8	江東	川南小	大塚 寿江	40	狛江	緑野小	亀田 親子
9	品川	三木小	白倉 直明	41	東大和	第六小	関 雅人
10	目黒	目黒中央中	西田 友幸	42	清瀬	芝山小	寺井 俊敬
11	大田	小池小	松橋 尚子	43	東久留米	南町小	永瀬 功二
12	世田谷	船橋小	奥長 英樹	44	武蔵村山	大南学園第七小	五十嵐 誠一
13	渋谷	笹塚小	荒木 憲秀	45	多摩	多摩第二小	吉田 正行
14	中野	令和小	松井 敏	46	稲城	稲城第四小	高橋 裕之
15	杉並	久我山小	小原 潤	47	羽村	小作台小	小山 夏樹
16	豊島	富士見台小	田中 良行	48	あきる野	御堂中	三浦 利信
17	北	東十条小	齊藤 浩雄	49	西東京	碧山小	中嶋 太
18	荒川	第二峽田小	福留 正也	50	瑞穂	瑞穂第一小	小川 ひろみ
19	板橋	志村第六小	堀内 祐子	51	奥多摩	氷川小	野尻 迅人
20	練馬	旭町小	清水 誠	52	日の出	本宿小	舟崎 照剛
21	足立	舎人小	大塚 信明	53	檜原	檜原小	下川 耕史
22	葛飾	末広小	宮原 賢二	54	大島	つつじ小	稲葉 真一郎
23	江戸川	松江小	木村 紀朗	55	新島	利島小中	高橋 健志
24	八王子	長沼小	瀧村 博昭	56	三宅	三根小	池田 吉弘
25	立川	新生小	押本 明文	57	八丈・青ヶ島	三根小	大場 一輝
26	武蔵野	第五小	鈴木 恒雄	58	小笠原	小笠原中	坂本 司
27	三鷹	北野小	清水 晃	59	学芸大学	附属小金井小	塚本 博則
28	青梅	第一小	鎌田 博志	60	高等学校	東大和高	山崎 仁
29	府中	四谷小	山中 慈子	61	特別支援	調布特別支援	原田 勝
30	昭島	共成小	森本 弘子	62	都庁	教育庁指導部 義務教育指導課	西川 さやか
31	調布	染地小	大柳 ひろみ	63	都教七	企画部企画課	高月 洋
32	町田	小山小	土田 昇				

サークル等活動紹介 第四回 男子ハンドボール部

男子ハンドボール部は現在、関東学生ハンドボール連盟の五部リーグに所属しています。毎年、春と秋に開催されるリーグ戦でのリーグ昇格を目標に、日々練習に励んでいます。直近のリーグ戦結果は次の通りです。(二〇二二年度春季リーグ戦男子五部二勝五敗全八大学中六位五部残留 来季リーグ五部) 新型コロナウイルスの影響でリーグ戦が開催されない年もありますが、その後は昇格、残留とまずまずの結果を残せていると思っています。



現在は例年九月頃から行われる秋リーグに向けて日々活動しているところです。

男子ハンドボール部は、数多くの先輩方に支えられて活動しています。近年は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、なかなかOB会を開催することができていませんが、そんな中でも数多くの激励の言葉とご支援をいただいております。感染状況が落ち着き次第、OB会にてOBの方々との交流も再開していきたいと思っております。また、直接的な交流でなくとも、各種SNSを用いて日々の活動を積極的に発信するように心がけています。SNSでは、練習日程やリーグ戦の結果はもちろん、部員紹介や日常のワンショットなども投稿しております。

現在、部員は十九名(内マネージャー四名)です。決して多いとは言えない人数ですが、その分、「一人一人が活躍する」という自覚をもって練習・試合に臨んでいます。

前回大会では一年生も出場し、内二名が初ゴールを決めました。

部員の内訳は、四年生一名、三年

生二名、二年生十名(内マネージャー三名)、一年生六名(内マネージャー一名)です。一・二年生が比較的多く、今後に期待です!! また、新入部員の募集も新歓期をはじめとして一年中行っています。実際に十月に入部した部員もいて、途中入部できる環境も特長のひとつだと考えています。マネージャー四名も、日々の練習サポートから事務的な役割まで幅広く活動し、本当の意味で『全員』でのハンドボールを意識して取り組んでいます。

活動日程は、学期・長期休業ことに部員で話し合い、決定しています。本年度の春学期は水・金・土・日曜日にいずれも三時間程を目安に活動してきました。練習内容としては、走り込みや筋力トレーニング、フットワークトレーニングや柔軟といった基礎的な体力作りから、六対六の組織的な練習、コート全体を使った速攻練習までハンドボールに必要なメニューを幅広く取り入れていきます。ハンドボール部には現在指導者がいないので、練習メニューは部長を中心に作成しています。

男子ハンドボール部は現在、上述の通り少人数でかつ、指導者がいません。こうした状況の中、四学年含めた部員全員で話し合いを重ねなが

ら日々の活動をしています。部長を中心に一人一人が意見をもって話し合いに臨み、意見を交流し、よりよい活動に発展させることができていると思います。これこそが現在の男子ハンドボール部の強みであると考えます。そして、話し合いの中で、様々な学びを得ています。また、幸いなことに縦のつながりが強く、OBの方々からのご支援を頂けていること、このこともチームの強みとして述べない訳にはいきません。チーム全体で精進して参りますので、今後とも応援よろしくお願いたします。

男子ハンドボール部部长

柳下 真輝 (B類理科三年)



令和4年度 同窓会総会



会場入り口



会場の様子



森理事長ご挨拶



國分学長ご挨拶



来賓紹介



理事・監事紹介